



二星

気仙沼市立唐桑中学校

令和4年度
校長室便り

第8号 11月18日発行

未来に繋ぐ



「唐中革命」というスローガンの下、子供たちの郷土愛という灯（ともしび）が炎（ほむら）となり、美しく輝いた文化祭となりました。

地域への熱い思い、家族への感謝、社会との結びつき、新しい学びの成果と提案が随所に見られました。古（いにしえ）から続く文化と人々との絆が現代の子供たちに継承され、未来につながっていく喜びを感じました。また、地域の皆様からは



学校教育の枠を超えたご支援、ご協力をいただくなど、文化祭を開催するにあたり、多くの皆様からご支援を頂戴しました。ご厚意を受け、文化祭を無事に開催できましたことに対しまして、心より御礼申し上げます。

昭和58年発行「唐桑の文化財（唐桑町教委編）」によると、宿地区に伝わる打囃子は江戸時代の享保年間（1716年頃）に、松園地区の松園虎舞は明治22年（1889年）頃に、唐桑に伝わっていたとの記述があります。「この太鼓の響きは徳川吉宗の時代から唐桑に鳴り続けてきたのか」と歴史を引き継いでいく姿に感動がこみ上げ、そして「小原木中の伝統をも取り入れ、表現しようとする意気込み」に「唐桑町の気概」を感じました。コロナ禍の中にも関わらず、取り組みにご理解をいただいた皆様への感謝も重なり、幸せな1日となりました。

【コラム】 生徒の表現活動から感じること

立場上、学校から出品される各種コンクールの作品には目を通すようにしています。

実は、本校から出品される作品のレベルの高さに驚いています。生徒の作品を読んだり、見たりしたときに、「どのように子育てをすれば、このように自分の世界観を広げ、表現できるようになるのだろうか。」と毎回、感心しきりです。（手前味噌で恐縮ですが、指導する教員も実に素晴らしいです。）

ご家庭での教育の様子をうかがう術（すべ）はありませんが、学校生活の中でヒントとして感じていることがあります。

それは、「真剣に取り組む生徒を見つめる、周りの雰囲気」です。

特に、文化祭に向けた生徒の取り組みを見て、「頑張っている人を



応援しよう」という空気を感じていました。それぞれに精一杯を表現したときに、「すごいね！」と、仲間を賞賛できる温かさがあったのです。

その姿勢が、文化祭当日も、弁論や総合、報告など、発表の場面で発揮されていました。保護者の皆様もご覧いただき、お感じになったのではないのでしょうか。

このような「他者を受容する雰囲気」、そして「頑張りを認める雰囲気」が、それぞれの子供の能力を目一杯引き出せる背景にあるのではないかと感じています。

おそらく、このようなお子さんが育ったのは、ご家庭の皆様が、誰かが頑張っている話を笑顔で食卓の話題にしたり、お世話になった方を敬う言葉を日常の会話にしていたり、学校の先生から受けた助言をきちんと生かそうと努めていたり、子供の前で他の人の悪口を言わないようにしていたり、と、「人生の先輩として」子供たちに見本を見せてくださった成果ではないか、と考えるのです。

今の学校生活の成果は、ご家庭における保護者の皆様の姿勢が反映されているのだろう、と想像します。

思わず、相田みつを氏の作品で、

「育てたように子は育つ」

と書いた書（しょ）があったことを思い出しました。

生き生きと、そしてひたむきに、目の前のことに頑張ろうとする生徒たちを見てみると、この言葉は真理を突いているなあと、感じるのです。

